

◆ 今ここで頑張っています ◆

暮らしを豊かに彩る香り

小川香料株式会社 フレグランス研究開発部 調香グループ パヒューマー
吉田 啓 (新制48回)



パヒューマー（調香師）という職業を志すきっかけは学部生時代の理工展でした。展示の準備過程で、とある化粧品メーカーで香料開発を行っている研究員の方からお話を伺う機会がありました。その体験を通じて「香り」という面白い世界があることを知った私は、香りのクリエイターであるパヒューマーという職業に引きつけられていきました。ヨーロッパにはパヒューマーを養成する専門の学校があるのですが、日本にはそういった教育養成機関がないので、パヒューマーになるには香料メーカーや化粧品メーカーに入る以外にはほぼ道がありません。2000年3月に清水研究室での修士課程を修了し、同年4月に就職氷河期真っ只中ではありましたが念願叶って小川香料株式会社の一員となることができました。

入社から半年ほどの社内研修の間、事あるごとに「パヒューマーとして香りづくりをしたい」と言い続けていたのが功を奏したのか、はたまたあまりにもしつこく言っているものだから仕方がないと思われたのか、正式に配属されたのがフレグランス開発研究所（現・フレグランス研究開発部）でした。配属後にはまず先輩から香りづくりをするための基礎的な訓練を受けました。何千種類もある香料原料や、それらの基本的組み合わせを学習し、その後OJTなどを通じて少しずつお客様が求める香料をつくる仕事に携わるようになりました。そして入社以来十数年経った今ようやく一人前のパヒューマーになりかけていると感じているところです。音楽家が音を組み合わせる作曲するように、パヒューマーは揮発性のある小さな分子を駆使して香料をつくり上げていきます。化学的でありながら芸術的な側面も併せ持つ香りの世界にますます魅力を感じています。

さて、少し香料についてのお話をしたいと思います。香りそのものが商品であるようなファインフレグランス（香水）などを除けば、中間原料である香料がスポットライトを浴びることはほとんどありません。しかし中間原料であるが故に様々な商品に用いられており、日々の暮らしにおいて香料に接しない日はないと言っても過言ではありません。私はフレグランス（化粧品香料）という飲食しない製品に使われる香料の開発を日々行っていますが、一日の生活をフレグランスという視点から俯瞰してみると、洗顔料、歯磨き、台所用洗剤、トイレトーパー、芳香剤、石鹸、ヘアスタイリング剤、化粧品、タンス用防虫剤、除湿剤、カイロ、マスク、ボールペン、衣類用洗剤、柔軟剤、シャンプー、入浴剤、などなど数多くの商品に香料が使われています。弊社ではフレーバー（食品香料）も開発していて、先の一日にフレーバーの関係する商品が加わることを想像してみれば、まさに朝から晩まで香りに囲まれて暮らしているという事実をお分かりいただけたと思います。

私たちが衣食住に不足を感じなくなったら次に何を欲しくなるのか、それは暮らしの快適さや食事の美味しさという「質」ではないでしょうか。香料はその「質」を生み出す価値を持っています。香りがなくても生きていくことは出来ませんが、香りのない生活というのは、風邪をひいて鼻が利かない時の食事と同じように、きっと味気ないものに違いありません。鼻をくすぐる香りが皆さんの顔をぱっと笑顔に変えていく、そんな光景を思い描きながら、私は今日も香りづくりに取り組んでいます。